

## 研究・技術計画学会 第29回年次学術大会(2014年度) ホット 이슈の募集について

研究・技術計画学会では、年次学術大会におけるホット 이슈を業務委員会において設定し、一般発表の募集を行います。それに先立ち、本年 10 月に開催される第 29 回年次学術大会のホット 이슈のテーマを、会員の皆様から広く募集いたします。

ホット 이슈の具体的な選定基準は次のようなものです。

- ・ 時機を得たものであること。ただし、追従的ではなく、当学会としてとりあげるに相応しい先導的、先見的なテーマ・課題であること。
- ・ 社会的意義やインパクトの大きなものであること。
- ・ 公共政策と企業経営の両者を横断するテーマ或いは課題であること。

ご提案のある方は、ホット 이슈のテーマとそれを提案する理由を 300 字以内でまとめ、5 月 31 日（土）中までに、学会事務局（office@jssprm.jp）まで電子メールでお送りください。会員各位からの提案を踏まえ、最終的には業務委員会にて協議し、数テーマを決定いたします。

ご自身の研究テーマには直接関わりがないものの、昨今の経済・社会情勢から見て重要であると思われるテーマをお持ちの方、あるいはご自身の研究関心・課題について、それを多少広げた議題で他の会員と討論してみたい、またそうすることが社会的にも重要であると考えている方など、会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

### 【参考】2013 年度のホット 이슈

※これらの例示にとられる必要はまったくございませんが、参考までに昨年のもを掲載いたします。

### ★国際競争の下での将来の大学像と大学改革

2004 年に国立大学が法人化されて 10 年近い年月が経つ。しかし、大学を改革すべきとの議論はそれで終焉するどころか、むしろ活発化している。少子化・国際化によって大学間競争が熾烈になり、国立大学運営費交付金の削減、私立大学経常費補助金の低迷、競争的資金間接経費の減額というなか、これからの大学のあり方を展望し、リーダーシップの発揮や組織運営の改革が模索されている。こうした中で①国際比較の中での日本の大学の現状評価、②これからの社会に求められる大学と人材育成、③大学の組織運営、戦略立案や研究支援（リサーチアドミニストレータ（URA）等のあり方を含む）の問題点とその解決策についての議論を深める。特に実効性ある大学改革に向けた積極的な提言を歓迎したい。

#### ★将来の女性リーダーへの期待

女性リーダーの活用は、イノベーションを育むための組織の多様化、および女性活躍を推進する上での日本の最重要課題である。共同参画社会実現の成否は、この課題への取り組みにかかっているといても過言ではない。理工系を中心とした分野におけるこの問題についての議論を深める。

#### ★多様なイノベーションへの対応

「社会のニーズ」「辺境」という言葉で象徴される新しいイノベーションのうねりを議論する。クラウド・ファンディング、BOP（ボトム・オブ・ピラミッド）、リバーズ・イノベーションなど、国間、階層を横断して生まれる多様なイノベーションの事例やフレームを共有して議論したい。

#### ★研究成果を効果的にイノベーションに結びつける方法論

研究活動とその社会的寄与の間には大きなギャップがあり、成果が実際の社会に役立つまで長い時間がかかること（悪夢の時代、死の谷などと呼ばれる）が認識されているが、研究開発側から積極的にこのギャップを埋める活動を行うことが求められている。また、世界的な科学技術イノベーション政策の動向をみても、先進諸国を中心に、科学技術を通じた課題解決と経済成長を実現するための施策が検討されるようになった。日本においても第4期科学技術基本計画において、「課題達成型」の研究開発の推進が謳われている。研究開発成果をイノベーションに効果的に結びつけるためには、常に“社会が何を求めているか”の把握と研究成果の活用・受容の在り方の予測を踏まえ、これらをフィードバックさせた研究開発施策の議論や“構成型”※の研究開発活動が必要である。本ホットイシューでは、研究開発成果をイノベーションに効果的に結びつけるための研究開発戦略や実施、政策立案などの方法論を議論することを目的とする。

※構成型研究：研究開発成果の社会での活用を視野に入れて研究開発の目標や具体的価値を定め、その実現のためのシナリオや研究手順を設定し、そのために必要な要素(技術)の選択と統合を行い、全体的な検証・評価を行う研究

#### ★技術の変化点を起点とするイノベーションの動向

ビッグデータ、M2M、3Dプリンター、音声インタフェースなど、最近の技術の大きな変化点を起点とするイノベーションが世の中で期待されている。これらはテクノロジープッシュ型であるが、それをマーケットの中でどのように意味づけるかがイノベーションの成功の鍵となる。意味づけが不十分であれば、一過性のブームで終わりがかねない。このような考え方は「デザイン・ドリブン・イノベーション」として注目されている。本セッションでは、技術の変化点を起点とするイノベーションに関する事例、課題と可能性、モデル、方法論および科学技術政策的な取り

組みについて議論する。

★持続可能な経済成長と課題解決のためのイノベーション・システムの変革

持続可能な経済成長と社会的課題の解決のためには、イノベーションの実現が不可欠であり、我が国のみならず世界各国でイノベーション・システムの変革が求められている。安倍内閣の成長戦略に代表されるように、イノベーションの創出を目的として、各種規制や制度を改革するために様々な施策が展開されようとしている。また、科学技術イノベーション政策においても、次期科学技術基本計画策定に向けて検討が開始されることとなる。また、これらの重要政策の立案、実行及び評価に際しては、我が国が置かれている現状を踏まえ、これまでなされた取り組みとその結果を客観的に把握・評価しつつ、従来の制度的慣性や思考的枠組みを越えた施策を企画・立案することも必要となる。本ホットイシューでは、成長戦略とイノベーション、科学技術イノベーション政策の科学など、我が国のイノベーション・システムの変革のための政策に関わる研究について、産官学のセクターを超えた幅広い発表と議論を期待する。

★学際研究・教育のマネジメント

現代の科学は多くの社会課題に直面しており、その解決には複数の学術分野の統合である「学際研究」(Interdisciplinary Research)が必要不可欠と考えられる。学際研究の必要性は1970年代から認識されて来たが、現在に至っても、その取組はいまだ量的・質的に十分であるとは言えず、未解決かつ現在進行形の課題である。そこで、社会のための学術の実現という高まるニーズに向け、学際的な研究・教育の現状・評価手法、それらを成功させるための経営管理手法などについて幅広く議論を行いたい。なお、本テーマは同様のテーマでCall for Paper形式により投稿論文募集が行われる論文誌特集号と連携しており、投稿希望者は本テーマで発表することにより担当編集者からアドバイスを求めることが出来る。

以上